

感染性胃腸炎由来ウイルスの変遷と遺伝子解析

【研究期間】 令和7年度～令和9年度

【背景と目的】

感染性胃腸炎

- ・ウイルスや細菌などによる胃腸炎
- ・下痢や嘔吐により日常の活動に支障をきたす
- ・保育所、高齢者施設、飲食店などで集団発生



ノロウイルス

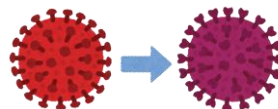
- ・感染性胃腸炎の原因ウイルスで最も多い
- ・変異することで地域での流行や世界的な大流行を繰り返している

新たな変異株の出現を監視するにはゲノムサーベイランスが不可欠
→ノロウイルスの進化・伝播の理解、ワクチン設計に役立つ

日本国内で検出されたノロウイルスの遺伝子型および遺伝子の変異を解析し、
流行しているウイルスの種類や新たに検出されたウイルスの特徴を明らかにする。

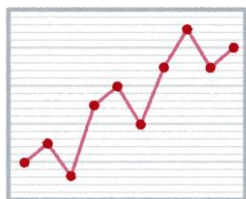
【研究内容】

- ① ウイルス遺伝子の抽出とノロウイルス検査
- ② 遺伝子配列の決定
- ③ 変異解析とウイルスの特徴評価
- ④ 情報の公開と共有

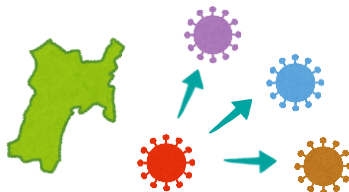


【期待される効果】

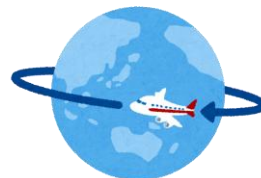
流行の監視と予測に貢献



地域における
ウイルス多様性の把握



国内外の流行拡大リスクを
推定



この研究は、感染症法に基づく積極的疫学調査、感染症発生動向調査
及び食品衛生法に基づく食中毒調査において提供された検体や情報を用いておこないます。
研究対象者となることを希望されない方は、研究対象から除外いたします。
なお、研究データは匿名化の上、統計的に処理されます。個人情報公表されることはありません。